

【報道関係各位】

2021年4月9日
三谷産業株式会社
株式会社小金井精機製作所

**三谷産業・小金井精機製作所、
日越大学において「日本型ものづくり」をテーマに企業連携講座を提供
～グローバルな視野で日本のものづくりを捉えることができる人材の育成を目指す～**

三谷産業株式会社（本社：石川県金沢市／代表取締役社長：三谷 忠照、以下 三谷産業）と株式会社小金井精機製作所（本社：埼玉県入間市／代表取締役社長：鴨下 祐介、以下 小金井精機製作所）は、2021年9月より、ベトナム社会主義共和国ハノイ市に拠点を置く日越大学において、「日本型ものづくり」をテーマとした企業連携講座を提供します。

それに先立ち、2021年4月8日（木）、「日越大学・三谷産業・小金井精機製作所 企業連携講座 協定書 署名式」を執り行いました。3者の代表者が独立行政法人国際協力機構（以下 JICA）本部に集い、ハノイ市の日越大学、さらに在ベトナム日本国大使館をオンラインで中継しました。

署名式の中では各代表による挨拶のほか、本連携講座に後援をいただく在ベトナム日本国大使館の駐ベトナム社会主義共和国日本国特命全権大使 山田滝雄様、同じく後援をいただく JICA の理事 萱島信子様より祝辞を賜りました。

日越大学は、日本とベトナムの政府の合意により、両国の友好と結束の象徴として2016年にベトナム・ハノイ市で開校した、ベトナム国家大学ハノイ校の7番目のメンバー大学です。ベトナムの将来を担い、グローバルに活躍できる人材の育成を目指しています。

本連携講座は、ベトナムと密接な関係を持ち事業を展開する三谷産業および小金井精機製作所がコーディネートする形で、日本の社会・経済の発展の原動力となってきた「ものづくり」をテーマに取り上げます。

日本を代表する複数の大手メーカーや造詣の深い識者にもご協力をいただき、ベトナムの学生に向けて日本のものづくりの進歩の歴史や経営のあり方、現場における実践事例を紹介し、日越大学の教育理念のもと、グローバルな視野で日本のものづくりを捉えることができる人材を育成することを目指してまいります。



署名式の様子。左より、在ベトナム日本国大使館 駐ベトナム社会主義共和国日本国特命全権大使 山田滝雄様、三谷産業 取締役会長 三谷充氏、日越大学 学長 古田元夫様、小金井精機製作所 代表取締役社長 鴨下祐介氏、JICA 理事 萱島信子様 <写真提供：JICA 様>

また本連携講座は日越大学の正式な学部科目として単位が認定されることも大きな特徴であり、学部プログラムの必修科目となるものも含まれます。日越両国政府においても非常に関心の高い取り組みと、評価いただいています。

■協定書署名式 概要

式 名 称： 日越大学・三谷産業・小金井精機製作所 企業連携講座 協定書署名式
日 時： 2021年4月8日（木）12:00～12:45（日本時間）
場 所： [主会場] 独立行政法人国際協力機構（JICA）本部（東京都千代田区）
[中継先] 日越大学、在ベトナム日本国大使館（ともにベトナム・ハノイ市）
各代表者： 日越大学 学長 古田 元夫 様
株式会社小金井精機製作所 代表取締役社長 鴨下 祐介 氏
三谷産業株式会社 取締役会長 三谷 充 氏
ご 来 賓： 在ベトナム日本国大使館 駐ベトナム社会主義共和国日本国特命全権大使 山田 滝雄 様
独立行政法人国際協力機構（JICA） 理事 萱島 信子 様

<各代表者のコメント>

日越大学 学長 古田 元夫 様

日越大学は世界水準の研究大学を志すと同時に、日本とベトナム両国の産業界のニーズに応える実践的な人材の育成を重視しています。今回の企業連携講座は2つの点で画期的な意義を持っています。一つは、日本型ものづくりは今後の日越関係に関わるベトナムの若者に不可欠の教養としてぜひ学んでほしい内容である点、もう一つは、今回の講座が日越大学にとって教育の面での最初の本格的な産学連携の取り組みである点です。これらを踏まえ、この連携講座を大きな一歩としてぜひ成功させたいと思います。

小金井精機製作所 代表取締役社長 鴨下 祐介 氏

当社は15年ほど前、ご縁があってベトナムの学生さんを採用するようになり、今では工場の中でベトナム人と日本人が一緒になって頑張っています。当社ではF1、インディ500、MotoGPなどのレースで使われる部品を製造していますが、その工作機械のプログラムは100%ベトナム人社員が作っており、非常に重要な仕事を担ってくれています。今回の企業連携講座において、ベトナム人と日本人がチームワーク良く仕事をしてきた経験を基に、少しでも還元できれば大変嬉しく思います。

三谷産業株式会社 取締役会長 三谷 充 氏

当社は1994年よりベトナムで事業を開始しました。日本国内では商社ビジネスが中心でしたが、ベトナムで初めてものづくりに挑戦し、ベトナム人エンジニアたちと議論をしながらものづくりのスタイルを構築してきました。日本にマザー工場を持たなかったがゆえに、当社ではベトナムと日本のハイブリッド型企業として成り立ってきた経緯があります。ベトナムに半世紀以上に渡りお世話になり、現在の当社があります。今回、その感謝を込めて、当社にできる最大限のサポートをしてみたいと思います。

■企業連携講座 概要

名 称： 日越大学・三谷産業・小金井精機製作所 企業連携講座
期 間： 2021年9月～2023年12月
場 所： 日越大学（ベトナム・ハノイ市）
後 援： 在ベトナム日本国大使館、独立行政法人国際協力機構（JICA）ベトナム事務所
協力科目：

- ①「日本とベトナムのビジネス」（2021年9月～2022年2月） 対象：学部2年生
- ②「日本的マネジメント」（2022年2月～7月） 対象：学部2年生 ※必修科目
- ③ 特別セミナー「日本型ものづくり」（2021年9月からの学期より年1回） 対象：学生、研究者

(補足情報)

【日越大学について】 <http://vju.ac.vn/VietnamJapanUniversity.html>

日越大学は、日本とベトナムの両政府により両国の友好と結束の象徴として設立され、2016年9月にベトナムのハノイ市で開校しました。東京大学、大阪大学、筑波大学、横浜国立大学、早稲田大学、立命館大学、茨城大学等の日本の有力大学と、ベトナム国家大学ハノイ校が協力し、グローバルに活躍する人材の育成を目指しています。現在、修士課程8プログラム（地域研究、企業管理、気候変動・開発、環境工学、グローバル・リーダーシップ、社会基盤、ナノテクノロジー、公共政策）および学士課程日本学プログラムを開講しています。

日越大学では、JICA 技術協力「日越大学修士課程設立プロジェクト」(TC1) が2015年4月から5年にわたり実施され、引き続き、2020年4月からは同「日越大学教育・研究・運営能力向上プロジェクト」(TC2) が開始されています。

【株式会社小金井精機製作所について】 <http://www.koganeiseiki.co.jp/>

小金井精機製作所は半世紀以上に渡りものづくり日本を象徴する精密機械加工業の発展に貢献してきました。世界最高峰を誇る、マシニングセンター、研削、旋削機械、精密測定機を駆使して作られる加工製品は日本のみならず、世界的にも大変高い評価を受けています。ヨーロッパを始め世界中の人々を虜にするF1、アメリカで最高峰レースと位置付けられるインディ 500、ヨーロッパのみならず東南アジアでも人気沸騰中のMotoGPなど世界中のレースシーンにおいてかなりの割合で製品が使用されているほか、近年の航空機需要の増加に伴い、そのジェットエンジン量産部品加工にも、活躍のフィールドは広がっています。

創業以来一貫してお客様の立場に立ち、短納期での高精度部品の加工に傾注してまいりました。世界最高精度を追求するためにはどのような苦難も厭いません。お客様のご要望どおりの部品を納期どおり、リーズナブルに提供する。この一見当たり前で実は時に困難な条件をクリアーすべくさまざまな準備、努力をフルパワーで邁進しています。

【三谷産業グループについて】 <https://www.mitani.co.jp/>

石川県金沢市で創業して93年、ベトナムで創業して26年の複合商社です。北陸、首都圏、ベトナムを拠点に、化学品／情報システム／樹脂・エレクトロニクス／空調設備工事／住宅設備機器／エネルギーの6セグメントで事業を展開しています。商社でありながら、時にメーカーとして、また時にコンサルタントとして、お客様にとっての最適を追求するとともに、「創業90年を越えるベンチャー企業」として更なる進化へと挑戦しています。

三谷産業ではベトナム子会社の総称をAureole（オレオ）グループと称しています。“Aureole”とは、フランス語で「栄光」を意味する言葉であり、ベトナム子会社の社名に冠しています。三谷産業が1994年にベトナム・ホーチミン市において事業を開始し、2021年4月現在ではベトナム国内において、現地子会社7社およびハノイ・ホーチミン駐在事務所合わせて計16拠点、現地社員数は約2,500人を有する規模になっています。

<報道機関からのお問い合わせ先>

三谷産業株式会社 経営企画本部 PR 企画室

TEL: 03-3514-6003 (担当：木下)